



2009年11月 石原社長 定例記者会見概要

12月2日午後3時より、石原社長による定例記者会見が放送センター20階、役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<ゴルフトーナメント事故について>

11月29日のゴルフトーナメントにおいて、中継スタッフが取材する運転カートが、下り斜面でギャラリーを避けようとしてハンドル操作を誤り、観戦中のギャラリーの方に接触する事故を起こしました。被害者の方々、中でも怪我をされた方には、心よりお詫び申し上げます。また当然の事ながら、怪我をされた方には、当社として誠心誠意対応させていただきます。一日も早いご回復をお祈りしております。その他のギャラリーの皆様や選手、トーナメントの関係者にもご迷惑をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。

ゴルフ人気が高まり、ギャラリーの人数も増えています。スポーツイベント、特にゴルフの取材に関して、安全確保のためにどうすればよいのか早急にチェックし、対応策をまとめるよう関係部局に指示しました。

<09年総括と10年抱負>

今年は昨年のリーマンショックによる世界同時不況の影響をもろに受け、大変厳しい状況だった。企業の収益悪化に伴う宣伝費の大幅な削減が、放送業界を直撃した訳でデジタル化の設備投資の減価償却の時期と重なり、民放の経営環境は大変厳しい状況だ。2005年をピークに広告費の減少が、わずかずつだがおきていたので、TBSでは、数年前から番組の質を落とすことなく、制作行程の見直しなど、コストコントロールに努めてきたが、昨年来の急激な広告市況の悪化で十分に対応しきれなかった。視聴率的にも苦戦しているが、このところドラマやバラエティなどで高視聴率番組が出てきており、明るい兆しも見えてきている。放送局にとっては、何よりも番組が全てであるので、視聴者の皆様に支持される番組の強化に向けて、全力で頑張りたいと思っている。今年は暗い話が多かったが、そうした中で、映画「おくりびと」が日本で初めてアカデミー賞を受賞できたことは大変名誉なことで、嬉しく思っている。

来年についても先行きは不透明な状況だと思う。こうした暗い時代なので、テレビ番組を通じて、少しでも「勇気付けられるような」、また「心から楽しんでいただける」、「世の中を明るくできる」番組をお送りしていきたいと思っている。TBSにとって、来年はテレビ放送開始から55年にあたり、さらに地デジ完全移行の2011年は会社創立60周年でもある。「最大よりも最良のメディアたれ」という創業時の志を忘れず、初心にかえって番組作りをしていくことが重要だと認識している。

また是非とも来年こそ、横浜ベイスターズが加地球団社長、尾花監督という新しい体制の下で、躍進して優勝欲しい。TBS テレビ、横浜ベイスターズともども、来年は「復活の年」にしたいと固い決意で頑張る所存だ。

<編成関連>

全日帯、ゴールデン帯、プライム帯ともに5位と厳しい状況が続いているが上期に比べるとわずかながら上向いてきている。ベルト番組では10月から始まった『イブニングワイド』が第1部で(6、7週目に)週平均7%台を出すなど好調に推移している。ドラマでは、内容についても非常に高い評価をいただいている日曜劇場『JIN-仁-』が20%を突破する快進撃を続けている。またバラエティでは『ひみつの嵐ちゃん!』の視聴率が10月以降13%~14%台で安定してきているので今後に期待したい。

日曜日のボクシング「内藤vs亀田」戦は、43.1%という驚異的な視聴率を獲得できた。内藤選手、亀田選手ともこの一戦に向けて真摯に向き合い、フェアな熱戦を繰り広げてくれたことが、この結果に繋がったものと思う。大変多くの視聴者の皆様と感動を共有できた事は、改めてテレビメディアのマスに対する訴求力の強さを実感した。

年末年始特番にはTBSらしい「大型企画」「人気企画」を数多くラインアップしている。12月24日のクリスマスイブには大ヒットした映画「花より男子ファイナル」のノーカット版を、ドラマシリーズのダイジェストを含めた3時間半で放送するほか、31日大晦日の『格闘技史上最大の祭典 FieLDS Dynamaites!! ~勇気のチカラ2009』には北京オリンピック柔道金メダリストの石井選手のデビュー戦が決まった。6時間の長丁場となるが、魔装斗選手の引退試合ということもあり、格闘技ファンの期待に応えられるような番組をお届けしたい。

<営業概況>

10月のタイムセールスはレギュラー番組のカロリダウんで厳しいスタート、今後は年末年始セールスを中心に単発セールスで実績を積み上げていく方針。スポットは東京地区の投下量が徐々に戻りつつある。10月は予算まであと少しの売上となった。今後はGRPの体力勝負となるが、他局にシェアで引き離されないような視聴率の回復に努めたい。

<BPO「バラエティ番組制作に関する意見」について>

バラエティ番組のあり方について、委員の方々が真剣に議論して、提言を取りまとめていただいた、そのご努力には率直に敬意を表したい。バラエティ番組に携わるひとりひとりが、謙虚に意見書を読んで、現場で議論を深める事が重要だと考えている。そうしたことを通じて、より良いバラエティ番組が生まれ、育っていくと思う。TBSでは、バラエティ番組に関わるスタッフ全員がこの「意見書」を読んで、感想や意見をまとめていると聞いており、より良いバラエティ番組作りに向けた取り組みは既に始まっている。

<ラジオ関連> TBSR&C 加藤社長

10月19日(月)～25日(日)に行なわれた個人聴取率調査の結果、TBSラジオは0.2ポイントアップの1.6%で個人聴取率単独首位を獲得し、2001年8月からの連続聴取率トップを8年4ヶ月50期に伸ばした。S. I. Uが0.5ポイント伸びて7.6%になったのはうれしい結果。全局ワイド番組トップテンのすべてをTBSラジオの番組が占め、1位は安住紳一郎アナの「日曜天国」。平日午後のワイド番組「小島慶子キラ☆キラ」と、日曜朝の「堀尾正明+PLUS！」がともに初めて同時間帯トップを獲得した。

年末年始編成では、「森繁久弥追悼番組『森繁の重役読本』座談会」12月25日21:00～22:00、「日本レコード大賞・50年の歩み」(12月28日20:00～22:00)、「坂本龍一が語る忌野清志郎 君が僕を知ってる」(12月29日21:00～22:00)などを放送予定。

来年1月25日からはTBSラジオ環境キャンペーンを「今日よりちょっといい、明日を」をスローガンに実施する。

以上